

令和7年度

大野小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本を確実に定着させ、わかる喜びを実感できる授業の実践
- 児童が思考を巡らせ、表現できる授業の実践

校長

宮越 千佳

学力向上推進員

松本 裕美

【小中連携における共通の取組】

年4回の連絡協議会を中心に、互いの授業実践や効果的であった取組事例を共有し、それらを自校の教育課程や指導方法の改善に反映させる。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、全教員での報告会を行うなど、様々な機会を捉え取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットの学習アプリを用いた学習に親しみ、隙間時間もドリル学習に取り組むことができている。 ●長い文章を正しく読み取ったり、多くの課題を時間内に終えたりする力には個人差が大きい。	(低)基礎・基本の定着と読解力を身につける。 (中)計算や漢字などの基礎的な知識・技能を正確に使い、単元テストや漢字スキルの正答率を8割にする。 (高)基礎・基本の定着に向け、単元ごとの評価テストで正答率が85%以上にする。	(低)タブレットのドリル学習に取り組み、個々の力を伸ばしていく。 朝の活動の時間に読書や視写をして読解力を養う。 (中)できたこと・できるようになったことを見える化し、児童の達成感を育てる。 単元途中や小テストで学習内容の確認と定着を図り、つまずきや誤答を分析し、指導に生かす。 (高)ミニテストやフラッシュカード、掲示物などを活用し、繰り返し学習に取りませることで、確実な基礎・基本の定着をはかる。	(低)読書の習慣は、よく身につけてきているので、引き続き推進していきたい。タブレットのドリル学習には慣れてきているが、個別差が大きいので、進捗が遅い児童には、基礎基本が身につくように支援していく。 (中)小テストや学習プリント等で誤答の確認をその都度行い、指導につなげることが単元テスト正答率8割達成につながっているように、今後も続けていく。 (高)ICTを活用し、基礎基本の定着につなげることができている。	(低)読書の推進は達成できているので引き続き実施していきたい。基礎基本が身につくようにタブレットのドリル学習を導入したことで個人に合わせた学習内容ができている。 (中)単元の最初にめあてを立て、単元末にふり返りを記述させることを継続したことが児童の達成感につながった。単元途中での分析を指導に生かすことができ、単元末テスト正答率8割を達成することができた。 (高)ドリルパークを活用し、自主的に学習を進め、設定時間内で全員が問題に取り組んだ。間違いの振り返りもできていた。	(低)読解力をより伸ばすために引き続き読書を推進していく。読む本の質を高めるために担任からおすすめの本を紹介する。読み取りだけでなく聞き取り問題に挑戦させて注意して聞く力を高めたい。 (中)より自分自身の学習状況に即したふりかえりができるよう、評価基準を示す。 (高)課題を選択する上で、本当に自分にとって取り組むべきことかの判断が難しい児童への支援を行う。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットやホワイトボードを用いて考えを表現したり、プレゼンテーションをしたりすることに親しんでいる。 ●必要な情報を適切に判断して読み取ることや、自分の考えを簡潔にまとめて表現することに課題がある。	(低)自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝えることができる。 (中)自分の考えを、文に書いたり友達に話したりすることができる。 友達の意見を聞いて、思ったことを発表することができる。 (高)課題を解決するために協働的な学習に取り組むことができるようにする。	(低)自分の考えや意見を文章に書く活動を重視し、書く力を身につける。 (中)考えを引き出す問い、広げ深める問い、といった問いかけを工夫したり、タブレットやホワイトボードで考えを可視化させたりして、支援者として児童に寄り添う手立てを充実させる。 (高)プレゼンテーション学習、話し合い活動、調べ学習などの協働的な学習を通し、習得した知識・技能を活用できるような学習場面を授業内に週3回以上確保する。	(低)読書の感想や日記指導を通して、あらずじや出来事を並べるだけでなく、自分の気持ちを書けるようにする。 互いの書いて文章を読み合い、感想を伝える活動を取り入れる。 (中)自力で文にまとめられる児童はまだ少ないが、型を示せば書いたり話したりすることができるようになってきた。 児童の発言に対して問い返しの発問を意識的にを行い、教師が児童の意見をつなぐ役割になるよう意識する。 (高)タブレットに自分の考えを表現し、共有することで協働的な学習が行えている。	(低)全ての教科で「書く活動や場面」を設定したことでだんだんとよりよい文章が書けるようになってきた。友達の書いた文章を共有することで質の高い文章が書けるようになってきた。個人差はあるがそれぞれの成長がみられた。 (中)書き方を身につけ、自分の考えを書ける児童が多くなった。ホワイトボードやタブレット等の活用を継続した結果、友だちの意見を聞いて発表することができるようになった。 (高)クラス内や異学年グループで考えをまとめ、全体に発表し共有する力が身につく、繰り返しプレゼンテーションを行うことで、人前で話したり相手の話を聞いたりする力が向上した。	(低)書く量が増えてきている。書いた後に自分の文を見直す習慣をつけるとともに、友達に読んでもらい間違いを見つけてもらう活動を取り入れる。 (中)ホワイトボードやタブレットを使って個人やグループの意見をまとめることはできたが、それらを使って学級全体で考えを共有したり、深めたりすることができるよう実践を行う。 (高)自分の意見を話したり、他者の考えをまとめたりすることの苦手意識がある児童については、配慮しながら表現力を伸ばしていく。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた生活し、課題に意欲的に取り組もうとしている児童が多い。 ○90パーセント以上の児童が「学校が楽しい」「授業の内容を聞いて理解している」と感じている。 ●与えられた課題には取り組めるが、自主学習や読書などに主体的に取り組める児童は少ない。	(全)家庭学習として、宿題と次の日の準備を行うことができる。 (低)望ましい学習態度を身につけ、進んで意見や考えを伝え合える児童を育成する。 (中)自分に合った学習内容や方法を選択できる。 (高)課題をつかみ、自分に必要な学習内容や方法を選択できる。	(低)始業までに学習準備を整え、チャイムスタートできるようにする。 低学年で共通したルールを作り、徹底する。 授業の中でペアワークやグループ活動などを取り入れ、話し合い活動を活性化させる。 (中)選択肢から課題を選んだり、課題の量や難易度、課題解決に誰と取り組むか(個人・グループで等)を児童が選択できる場面を取り入れる。 (高)学習ごとに振り返りを書かせる時間を確保するとともに、学習の仕方を理解させるようにする。	(低)学習準備やチャイムスタートは、ほぼできるようになっている。ペアワークやグループ活動については、積極的に取り入れており、友達の意見を受けて、話せるように継続して支援していく。自主学習を通して、学習意欲を高めていく。 (中)課題や学び方を選択できる機会を増やし、自分に合ったものを選べるようにする。 (高)個人差はあるが、自分で課題を見つけ、工夫しながら自主学習に取り組んでいる。	(低)チャイムスタートができるようになってきている。ペアワークやグループ活動で友達と話したり見合ったりしている。自主学習ノートを取り入れたことで、自主的に学習する姿勢が身につけてきた。 (中)学習内容や学習形態を選択させる機会を意図的に設定し、児童も主体的に学習に取り組む姿が見られた。 (高)個人の好きな物や得意なことを伸ばす探求型学習を取り入れることで、主体的に学習に取り組む姿がよく見られた。	(低)大野小学校における学習規律を共有し、低学年から一貫した指導ができるようにする。 (中)各教科において児童が自分に合った学習内容や方法を選択する機会を確保する。 (高)課題設定が難しい児童には、配慮しながら自分の苦手な教科や内容にも進んで取り組めるよう支援していく。